中谷宇吉郎 没後50年

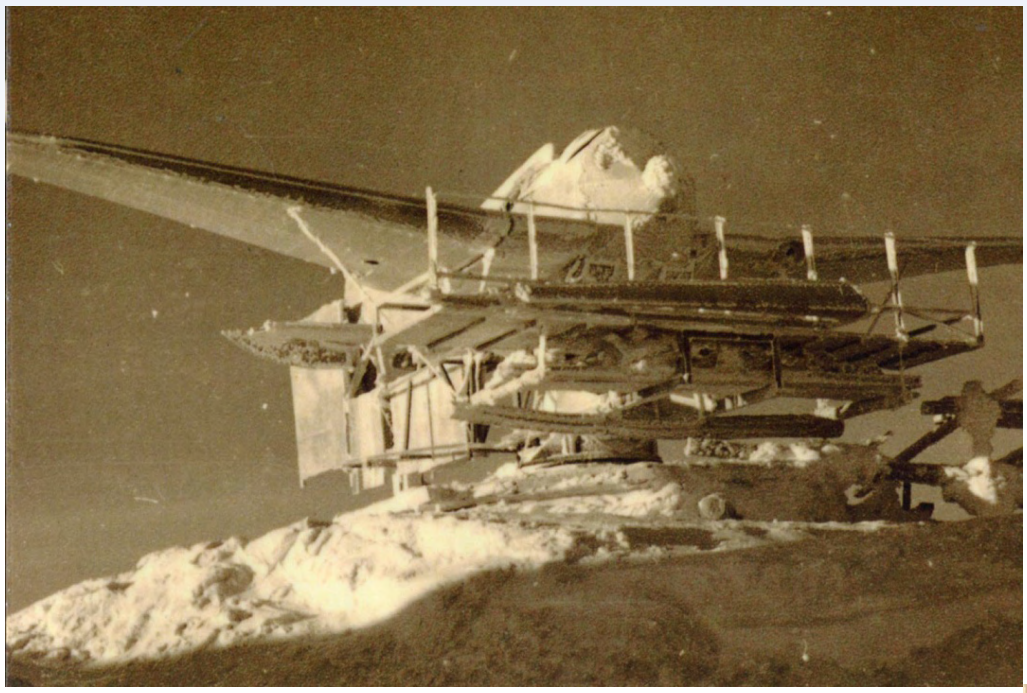
The 50th Anniversary Events Dedicated to the Memory of Ukichiro Nakaya

〈記念講演会 Part 3〉

「中谷宇吉郎と戦時研究」 講師 菊 地 勝 弘 氏

■日時 2012 年 10 月 27 日［土］13 時 30 分 ～

■会場 北海道大学総合博物館 1階「知の交流」コーナー



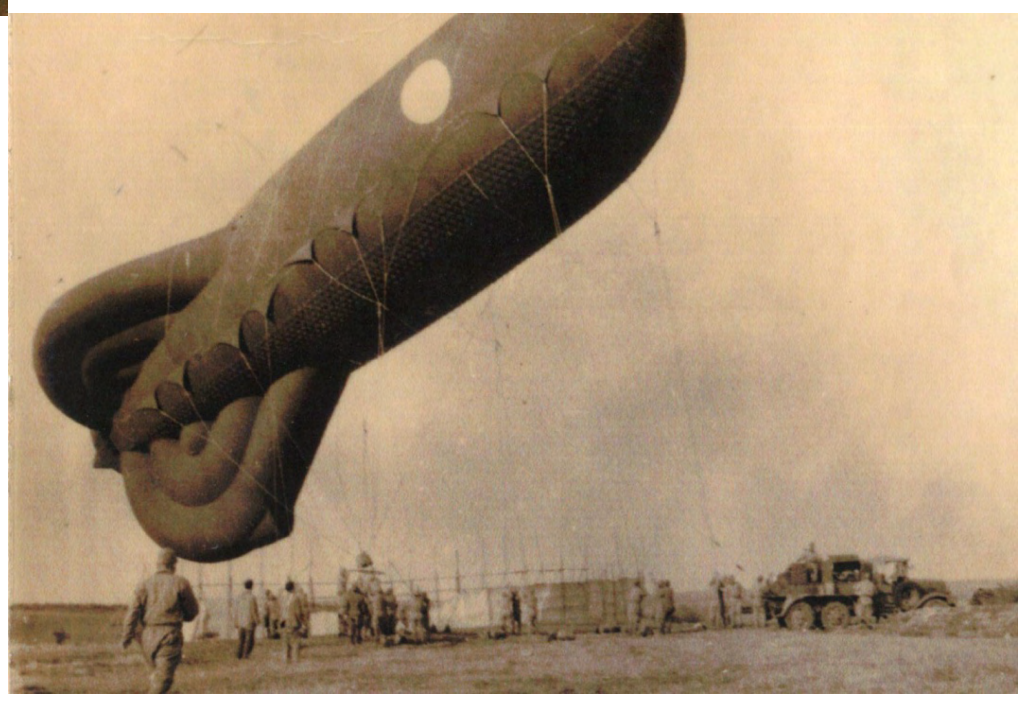
中谷宇吉郎の雪の研究は 1932 年の札幌や十勝岳中腹の顕微鏡観測から始まったが、1935 年（昭和 10）の常時低温研究室の完成によって一気に進み、翌 1936 年 3 月 12 日には世界初の人工雪の生成に成功した。

10 月には人工雪実験を天覧に供する栄誉を得たが、その直後から肝臓ジストマを患い、伊東温泉で 2 年間の療養生活を余儀なくされた。

1939 年全快して札幌に戻り、翌年から旧鉄道省札幌鉄道管理局や旧南満洲鉄道の依頼を受けて道内や旧満州で凍上の現地観測をスタートさせた。

一方、1943 年には国家総動員令による海軍省主導の戦時研究「航空機着氷防止の研究」のため、ニセコアンヌプリ頂上に着氷観測所を建設し、実物の戦闘機を運び上げて研究を開始すると同時に、翌年には陸軍省主導の戦時研究「千島、北海道の霧の研究」を根室で開始したが、1945 年 8 月終戦と同時に戦時研究は終了した。

今日でもとても考えられないような山頂や海岸で行われた大規模な研究観測はどのように行われたのだろうか。残されている当時の写真や報告書からその一端を紹介する。



「写真提供：中谷宇吉郎雪の科学館」

菊地 勝弘　きくち・かつひろ

北海道大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授。1934 年（昭和 9）年、根室管内標津町生まれ。北海道大学大学院修了。北海道大学理学部助教授を経て 1980 年、北海道大学理学部教授、大学院教授。1998 年、北海道大学退官。1999～2005 年、秋田県立大学教授。1967～1969 年第 9 次日本南極地域観測隊越冬隊員（昭和基地）。1975 年、78 年、アメリカ南極観測隊員（南極点基地）。1974 年、日本気象学会賞。1997 年、紫綬褒章（気象学研究功績）、北海道科学技術賞、日本雪氷学会功績賞。2000 年日本気象学会藤原賞。2009 年、瑞宝中綬章。主な著書に『雲と霧と雨の世界―雨冠の気象の科学〈1〉』『雪と雷の世界―雨冠の気象の科学〈2〉』（いずれも成山堂書店）『雪の結晶図鑑』（梶川と共著）（北海道新聞社）など多数。札幌市在住。

■主催：中谷宇吉郎没後 50 年記念事業実行委員会
共催：北海道大学総合博物館
協力：中谷宇吉郎雪の科学館（石川県加賀市）

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館
札幌市北区北 10 条西 8 丁目
TEL：011-706-2658　FAX：011-706-4029